

ごあいさつ

代表：岩村和彦

新年を迎え会員の皆様のご健勝をお慶び申し上げます。

北海道の山では昨年も多く事故がありました。中でも8月、日高の沢で東京の学生3人が亡くなったとき、偶然近くの沢を登っていた一人としてひととき心痛むものがありました。

さて会員の皆様にはこの一年並々ならぬご支援、ご協力をいただき深く感謝申し上げます。限られた活動メンバーが毎月一度会合を持ち、議論を重ね、活動を行って参りました。このニュースレターを差し上げることで会の活動状況を把握していただき、会の活動に一層のご理解をいただければ幸いです。

来る3月5日には第12回目の山のトイレフォーラムを開催する予定です。多くの会員の皆様のご参加と忌憚のないご発言をご期待し、挨拶に代えさせていただきます。

◆活動報告

1. 第11回フォーラムの開催 (2010. 3. 6)

第11回山のトイレフォーラムが北海道大学学術交流会館で開催され、47名の参加者を迎えて行われました。

テーマは「改めて北海道の山トイレ事情の今」です。

北海道のトイレ事情について4人の方から各山域について報告があり、ディスカッションしました。

(報告1) 大雪・十勝 黒澤大助氏(山のトイレを考える会)

(報告2) 知床羅臼岳 滝澤大徳氏(知床山考舎)

(報告3) 利尻山 岡田伸也氏(環境省利尻アティブ・インジャー)

(報告4) 日高幌尻岳 稲垣悦夫氏(幌尻山荘管理人)

大雪・十勝では黒岳にバイオトイレが設置されましたが、設計値より利用者数が多いため水分過多となりパイオが動かず、オガクズ交換を年間5回ほど行い維持管理に関係者が大変なご苦労をしています。また、忠別小屋、ヒサゴ小屋などは老朽化して傷みが激しい事。トムラウソク野営地の携帯トイレブースも傷み、便座の取り付けの悪さなどが報告されました。

知床の羅臼岳では、山中にトイレはありません。主要な水場や野営地である羅臼平ではティッシュも散乱しています。そこで平成20年から携帯トイレの利用推進を実施しています。滝澤氏からはガイドとして、いかに携帯トイレを普及、定着させるか、いろいろなご苦労話とノウハウ、改善提案のお話がありました。



第11回山トイレフォーラム模様

利尻山は全国的にも携帯トイレで山岳環境を守っている先進地です。そこに至るまでの町、環境省、島民が一体となって困難を克服した経緯を岡田氏がお話してくれました。

幌尻山荘のトイレ問題については、管理人の稲垣氏からバイオトイレの維持管理や仮設トイレのし尿担ぎ下ろしなどの苦労話についてお話がありました。

その後、ディスカッションとなりましたが、行政といかに連携して問題を解決していくか議論が交わされました。

フォーラムの内容は当会ホームページに掲載していますのでご覧ください。

2. 2010山のトイレデー実施 (2010. 9. 5)



17名参加した利尻山隊

2010山のトイレデーを9月5日に実施しました。今回で10回目です。生憎の荒天で、日程を変更して実施したグループもありました。

北海道の約28箇所の登山口でマナー袋と山のトイレマナーガイドの配布、ティッシュやゴミを拾う清掃登山を一斉に行いました。参加者は約80名、マナー袋、マナーガイドは約2000枚を配布することができました。

今回は本州の蔵王でも山のトイレデーにあわせ活動していただきました。多くの皆様に支えられてこそこの山のトイレデーです。今後も継続して実施していこうと思いますので、ご協力宜しくお願いします。

3. 幌尻山荘の排泄物担ぎ下ろしに参加 (主催：日高山脈ファンクラブ) (2010. 7. 17～19) (2010. 9. 18～20)

日高山脈ファンクラブ（樋口和生会長）主催の幌尻山荘排泄物担ぎ下ろしに、当会の会員も参加しました。

幌尻山荘では、屋外にバイオトイレが1基、貯留式仮設トイレ2基、山荘内に貯留式1基が設置されています。

バイオトイレは水力発電機の故障で利用できない日も多かったのですが、天候不良により登山者が少なかったため排泄物の量はいつもの年より少なかったようです。

1回目は参加者21名で158kg、2回目は参加者23名で370kg担ぎ下ろしました。屋外仮設トイレ便槽を空に、山荘内トイレ便槽は3/4を運搬しました。

2005年開始したこの事業の参加者は延べ232名、人力運搬総量は2787kgとのことでした。

6年も続けている日高山脈ファンクラブに敬意を表したいと思います。



2010年第2回排泄物担ぎ下ろし

4. マナー袋が全国的に広まる

当会が考案したマナー袋はトレッキングウエアの専門メーカーである（株）ムッシュ様から無償で提供していただき、山のトイレデーなどで配布してきました。

このマナー袋は徐々に全国的にも知られるようになり、神奈川県自然環境保全センター、宮城県蔵王町、神奈川県山岳連盟、山のトイレ環境を考える福岡協議会など多くの団体に当会や（株）ムッシュ様から送付しました。

使用済みティッシュ持ち帰り運動が全国的な広がりを見せていることは本当に嬉しいことです。

5. 羊蹄山避難小屋の建替えについて

羊蹄山は年間約1万人の登山者が訪れています。現在登山コースは4つあり、9合目付近に避難小屋が建てられていますが、施設の老朽化が進んでいることから再整備を行うことが計画されています。

現在、学識経験者や関係機関・自治体等による検討会を設置し、避難小屋を再整備するに当たり、羊蹄山登山のあり方や避難小屋施設の機能を含めた検討を行っています。

検討内容は資料、議事録も含め環境省のホームページで公開されています。小屋に付帯するトイレについても結論はでていませんが、検討内容を見ることができます。

<http://www.env.go.jp/park/shikotsu/data/youteizan.html>

また、皆様の意見等も述べることができます。なお、建替え時期は、まだ明確になっていないとのことです。



6. 手稲山登山口のトイレ壊される (2010. 6)

札幌市民に親しまれている手稲山（1023m）で最も利用されている平和の滝コース登山口のトイレが6月に心無い人により壊され、利用ができない状態が続いています。担当している札幌市の西区土木センターに問い合わせてみたところ、現在のトイレを修復して、来春から使用できるように進めているとのことでした。

ポットトイレには変わりはないようです。本当に残念なことです。



壊された手稲山平和の滝コース登山口トイレ

★携帯電話で北海道の登山口・山のトイレ情報が見れます！ <http://yamatoilet.jp/i/yamatoilet.htm>

連絡先

060-8589 札幌市北区北9条西9丁目 北海道大学大学院農学研究院内

山のトイレを考える会事務局（担当：愛甲哲也）

電話＆FAX：011-706-2452

電子メール：hokkaido@yamatoilet.jp

<http://www.yamatoilet.jp>

（ニュースレター編集）
仲 俣 善 雄